

(様式第3号)

平成16年度調査研究中間報告書

調査研究課題	感染症・生活習慣病における臨床分子疫学的研究 「慢性肝疾患における分子疫学的研究」
計画期間	平成15年度～17年度 3年間
調査研究計画	1. 慢性肝疾患における肝炎から肝臓への進行に影響を与える要因を、患者側(宿主側)において明らかにすることを目的とする。肝機能に対する効果が報告されているタウリンの肝疾患進展、特に肝線維化への抑制効果の有無について検討する。 2. 肝線維化(肝硬変)動物モデルの作成方法を確立する。 3. 疾患モデルに対しタウリン投与を行い、肝機能向上、肝線維化抑制効果について分子生物学的検討を行う。
進捗状況	ヒト慢性肝疾患に類似した疾患動物モデルについて、四塩化炭素投与による病態や肝組織像(肝線維化像)の進行状態についてラットを用いて検討した。また、タウリン投与の肝障害や肝線維化抑制効果、抗酸化作用等に対して検討した。
これまでの成果の概要	ラットへの四塩化炭素5週間反復投与による肝疾患・線維化発現動物疾患モデルの作成を確立した。 疾患モデルラットに対する経口タウリン投与により、血液生化学的・組織学的検討により、肝障害や肝線維化、酸化ストレスの抑制効果が生体内実験( <i>In Vivo</i> )にて得られた。
今後の計画・課題対応方法	肝細胞や肝線維化の原因となる活性型肝星細胞の培養系を用いて検討し、これまで得られたタウリンの肝障害、肝線維化抑制効果についてのメカニズムを細胞レベルで解明する。